

第3章 重点整備地区の設定

1. 重点整備地区の設定の考え方

重点整備地区の設定に際しては、1日の乗降客数が5,000人以上である駅(特定旅客施設)を中心とした地区を対象とし、配置要件・課題要件・効果要件*1及び地域の特性を勘案して設定するものとします。

*1

配置要件：特定旅客施設を中心とした地区であり、かつ特定旅客施設から徒歩圏にあって、相当数の高齢者、身体障害者等が利用する施設を含むこと。

課題要件：特定旅客施設及び特定旅客施設と配置要件の施設との間の経路(特定経路)を構成する道路等について、バリアフリー化が図られていない現状等から総合的に判断して、バリアフリー化のための事業が実施されることが特に必要であると認められること。

効果要件：他の地区に優先して、かつ各事業者の整合性を確保してバリアフリー化のための事業が実施されることが、重点整備地区のみならず都市全体として有する様々な機能の増進を図る上で、有効かつ適切であると認められること。

主要施設の考え方

主要施設とは、官公庁施設、福祉施設、医療施設、教育施設、文化・レクリエーション施設、都市公園、公益サービス施設(銀行等)、商業施設など、高齢者、身体障害者等が日常よく利用する施設とします。

<学校>

駅を利用すると考えられる小中学校・高校・大学、障害者等の利用が考えられる学校(養護学校など)を対象とします。

<都市公園>

市民の憩いの場、多世代交流の場として公園は重要であり、比較的大規模な近隣公園、総合公園を対象とします。

2. 重点整備地区の設定

近江八幡市内の鉄道駅の中で、1日の平均乗降客数が5,000人以上という条件(特定旅客施設)及び、配置要件・課題要件・効果要件に照らし合わせて、バリアフリー化の優先度が高い地区として『近江八幡駅及び周辺地区』選定し、重点整備地区に設定します。

市内各駅の一日常乗降客数

駅		1日平均乗降客数(人/日)
近江八幡駅	J R	32,960
	近江鉄道	4,890
	計	37,850
J R 篠原駅		6,090
近江鉄道武佐駅		360



特定旅客施設 = 近江八幡駅、 J R 篠原駅



配置要件・課題要件・効果要件に照らし合わせると、重点整備地区としてバリアフリー化を進める地区としては、近江八幡駅及び周辺地区の優先順位が高いと考えられます。



重点整備地区 = 『近江八幡駅及び周辺地区』

重点整備地区（近江八幡駅及び周辺地区）位置図

